

氏名	仁 科 智 裕
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 号
学位授与の日付	平成16年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	The ratio of thymidine phosphorylase to dihydropyrimidine dehydrogenase in tumour tissues of patients with metastatic gastric cancer is predictive of the clinical response to 5'-deoxy-5-fluorouridine (転移性胃癌患者における腫瘍組織中 thymidine phosphorylase と dihydropyrimidine dehydrogenase の比の測定による 5'-deoxy-5-fluorouridine の効果予測)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 谷本 光音 助教授 宮崎 正博

学位論文内容の要旨

胃癌腫瘍組織中の thymidine phosphorylase (以下 TP) と dihydropyrimidine dehydrogenase (以下 DPD) 量を測定し 5'-deoxy-5-fluorouridine (以下 5'-DFUR) の抗腫瘍効果との関連をプロスペクティブに検討した。対象は切除不能・転移性胃癌症例 25 例。用いた化学療法は 5'-DFUR、cisplatin、mitomycin C 併用療法である。インフォームドコンセントを得た後、化学療法前に胃癌生検組織を採取した。治療効果の確定後に組織中の TP および DPD 量を ELISA 法にて測定した。測定可能病変を有し腫瘍縮小効果の評価が確定した 22 例につき検討を行った。TP/DPD 比の cut-off 値を 1.9 とすると比の高値例では 67% の奏効率であるのに対し低値例では 9.1% であり有意差を認められた ($p=0.024$)。さらに、TP/DPD 比の高値例では低値例に比べ有意に生存期間が長かった。以上より胃癌組織内の TP/DPD 比の測定は胃癌に対する 5'-DFUR の抗腫瘍効果の予測に有用であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は切除不能・転移性胃癌症例 25 例を対象として胃癌腫瘍組織中の thymidine phosphorylase (以下 TP) と dihydropyrimidine dehydrogenase (以下 DPD) 量を測定し 5'-deoxy-5-fluorouridine (以下 5'-DFUR) の抗腫瘍効果との関連をプロスペクティブに検討したものである。TP/DPD 比の cut-off 値を 1.9 とすると、比の高値例では 67% の奏効率であるのに対し低値例では 9.1% であり有意差を認められ ($p=0.024$)、さらに、TP/DPD 比の高値例では低値例に比べ有意に生存期間が長かった。

この結果は、胃癌組織内の TP/DPD 比の測定が胃癌に対する 5'-DFUR の抗腫瘍効果の予測に有用であることを示唆するもので、本研究は今後の胃癌化学療法の成績向上にとって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。